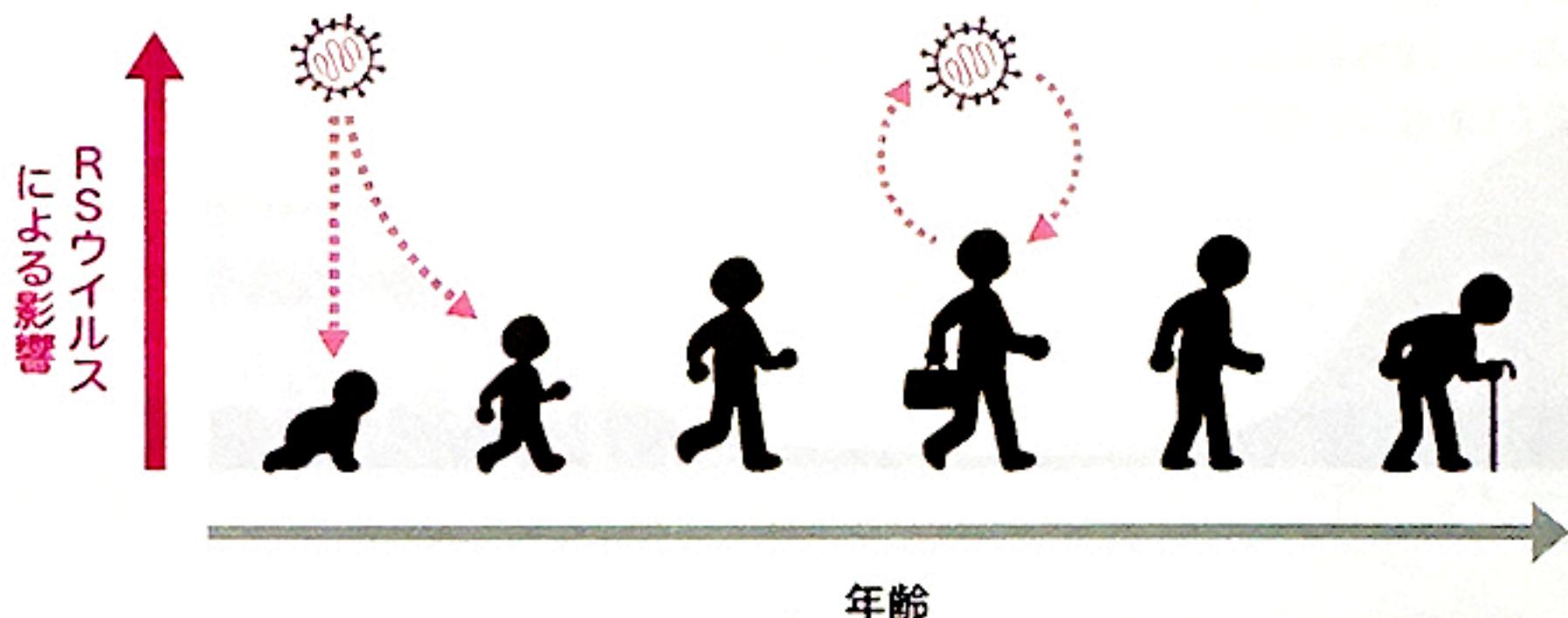


RSウイルス感染症とは？

- RSウイルス感染症は、RSウイルスにより引き起こされる呼吸器感染症です¹⁾。RSウイルスは2歳までにほぼ100%が感染し、生涯にわたって何度も感染と発症を繰り返します²⁾。

年齢とRSウイルスによる影響（イメージ図）



1)IASR Vol.43 p87-88 2022年4月号「新型コロナウイルス流行期に高齢者施設で発生したRSV-Bの集団感染事例」

2)国立感染症研究所 感染症発生動向調査速報 2023年第28号（注目すべき感染症）RSウイルス感染症

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/herpangina-m/herpangina-idwrc/11850-idwrc-2328.html> (アクセス 2023年11月)



RSウイルス感染症の経過は？

- 成人の方の多くは軽症で、発熱や鼻水、咳などの症状があらわれ、数日で回復しますが、一部の方は、気管支炎や肺炎に至ることもあります。また、喘息、COPD、心疾患などの基礎疾患の増悪の原因となることもあります^{1,2)}。

潜伏期間
4~5日

発熱、鼻水、
咳などの
上気道炎の
症状で発症

約70%³⁾ 数日間で回復



約30%³⁾ 喘鳴、呼吸困難などの下気道炎の症状があらわれる
数日～1週間ほどかかる回復

一部の方の中には、肺炎などに発展することもある³⁾

1)Centers for Disease Control and Prevention(CDC), RSV in older adults and adults with chronic medical conditions.
<https://www.cdc.gov/rsv/high-risk/older-adults.html> (アクセス 2023年11月)

2)Ivey KS et al: J Am Coll Cardiol 2018; 71(14), 1574-1583

3)堤裕幸: ウィルス 2005; 55(1), 77-84



RSウイルス感染症で、注意が必要な患者さんは？

- RSウイルス感染症は一般的には軽症で回復しますが、高齢者、慢性の基礎疾患（喘息、COPD、心疾患など）、免疫機能が低下している人の場合、RSウイルス感染症の重症化リスクが高いとされています¹⁾。



高齢者^{1,2)}



喘息、COPD、心疾患など
慢性的な基礎疾患がある人^{1,3,4)}



免疫機能が
低下している人¹⁾

RSウイルス感染症は、喘息、COPD、心疾患などの基礎疾患の増悪の原因となることもあります^{1,5)}。

1) Centers for Disease Control and Prevention (CDC). RSV in older adults and adults with chronic medical conditions.

<https://www.cdc.gov/rsv/high-risk/older-adults.html> (アクセス 2023年4月)

2) Belongia EA et al: Open Forum Infect Dis 2018; 5(12), ofy316

3) Branche AR et al: Clin Infect Dis 2022; 74(6), 1004-1011

4) Wyffels V et al: Adv Ther 2020; 37(3), 1203-1217

5) Ivey KS et al: J Am Coll Cardiol 2018; 71(14), 1574-1583



基礎疾患があると、入院リスクが高くなるの？

- 基礎疾患（喘息、COPD、うつ血性心不全、冠動脈疾患、糖尿病）があると、その基礎疾患がない人と比較して、RSウイルス感染による入院率が高まることが報告されています（海外データ）。

基礎疾患がある場合の

RSウイルス感染症による入院率比

（その基礎疾患がないとの比較）

喘息では2~3.6倍

糖尿病では
2.4~11.4倍

COPDでは3.2~13.4倍

うつ血性心不全では
4.0~33.2倍

冠動脈疾患では
3.7~7.0倍



対象：RSウイルス流行3シーズンに急性呼吸器疾患の症状2種以上または心肺基礎疾患の増悪によりニューヨーク州の2つの地域の医療施設3カ所に入院したRSウイルス感染症患者1,099例

方法：前向き人口ベース調査研究。年齢層別の100,000人当たりのRSウイルス感染症入院率を算出し、基礎疾患有無別の年間RSウイルス感染症入院率を比較した。

本研究の限界：本データは郊外および都市部の集団を代表しているが、米国成人集団全体ではなく、一般的な結論を導くのは難しい。基礎疾患については、自己申告および電子カルテより抽出し、その内容を確認していない。調査期間にRSウイルス感染症のアクティビティサーベイランス（積極的な監視療法）を実施していないが、調査チームにより陽性患者を追加した。

Branche AR et al: Clin Infect Dis 2022; 74(6), 1004-1011より作図